地域に支えられながら走る 若桜鉄道

Wakasa Railway

若桜鉄道は、平成21年4月から八頭町・若桜町が鉄道用地や線路・駅舎等の鉄道施設を保有し、若桜鉄道㈱が運行を行う、全国初の公有民営の上下分離方式により運行しています。

平成28年4月には、若桜鉄道㈱が保有していた車両も両町が保有する運営となり、若桜鉄道の経営安定化に向けた支援を進めてきました。

コロナ禍を経て、車両の老朽化や沿線人口の減少など、多くの課題に立ち向かいながら、持続可能な鉄道として、開業100周年に向け走り続けています。

Wakasa Railway

2期連続の黒字決算

令和5年度は、新型コロナ感染症が5類相当となり、人の流れが活発になることが予想された中、収益の主となる旅客運輸収入は4858万円余りとなり、昨年より6万円余り増加。コロナ前まで回復しました。

子育て世代の負担軽減を目的に、令和5年度より通学費助成制度を拡充させたことで、定期券購入者が増加したこと、インバウンドの需要が伸び、海外からの旅行者が増加したことが主な要因となりました。

このほか、JRに貸し出す車両使用料収入、八頭町・若桜町から委託を受けて実施するマクラギ交換や車両修繕などの受託費、売店売上などの営業収益等の合計は3億2648万円余りでした。

また、令和5年より再開したSL-DL体験運転会や、八頭町のふるさと納税返礼品「若桜鉄道一日駅長」などの体験型商品の売れ行きが好調で、観光車両の鉄道グッズとともに、営業外収益の確保につながりました。

これに対し、人件費、業務費、運輸費、修繕費などの営業費用等の合計額は3億3891万円余りでした。

全国的な物価高騰と車両や施設の老朽化が進む中、鳥取県や八頭町・若桜町からの運行支援策等を活用しながら、一層の経費削減に努め、収入を確保するために地道に鉄道グッズの物販を行い、アイデアを出しながら企画した体験型商品の販売などを行った結果、当期損益は+81万円余りとなり、2期連続で黒字決算となりました。

輸送人員は大幅に減少

輸送人員の総合計は、前年を大きく下回り、42万4608人となり、前年より5万562人減少しました。

そのうち普通旅客は、新型コロナの影響が残る中、夏から秋にかけてインバウンドと個人旅行者の増加もあり、7万590人と前年とほぼ横ばいとなった一方、通学利用者は、少子化の影響により、約10%減の32万948人となりました。

持続可能な公共交通に。スマホを見せるだけ！鉄道・バス共通パス

利用者のさらなる利便性の向上を目的に、鳥取県と東部の市町、JR西日本・若桜鉄道、バス事業者で組織する「鳥取県東部地域MaaS※協議会」では、令和6年4月1日から10月31日まで、スマホ一つで区間内の鉄道や路線バス、コミュニティバスにスムーズに乗車できる共通パスを販売しています。

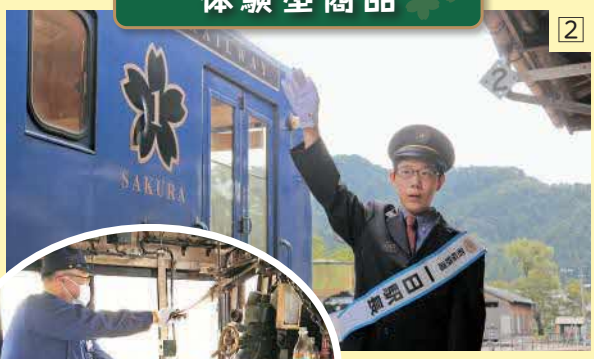
鉄道・バス共通パス　案内チラシ

※MaaS（マース）とは、「Mobility as a Service：モビリティ アズ ア サービス」の略で、複数の交通手段を統合し、1つの移動サービスとして、検索から予約、支払いまでを可能とする、交通の効率化を目指したサービスのことを言います。

公共交通の利用者数が減り、路線の維持が難しくなると叫ばれ始めている中、交通事業者の垣根を越えて、持続可能な公共交通の確保を目指します。

Wakasa Railway

体験型商品



新たな鉄道グッズ

NEW

1 大手アパレルメーカーとタイアップした新たな鉄道グッズ
2 制服と帽子をかぶり、気分は駅長
3 鉄道職員指導のもと、本物のSLを運転できます。

若桜鉄道 NEWS

若桜鉄道は、地域の皆様と全国の鉄道ファンに支えられて運行しています。

沿線の集落や任意団体の皆様による景観保全活動をはじめ、お手振りなどのおもてなしは全国からお越しいただいた観光客の心を和ませます。

若桜鉄道は、これまで以上に運転士や技術職員の育成に力を入れ、人口減少社会を見据えながら、これまで培ってきた技術や文化的素材を活用し、鉄道の魅力を改めて発信し続けるとともに、安心安全な輸送機関としての役割を果たすことを目標として、若桜線開業100周年を目指して走り続けます。